

## 「雲仙・普賢岳溶岩ドーム崩壊に関する調査・観測及び対策検討委員会」 討議結果

### ● 雲仙岳溶岩ドームの現況

■平成9～23年の14年間で、溶岩ドームの一部に南東方向に1mの移動を確認

### ● 溶岩ドーム崩壊時に想定される現象

■溶岩ドームが崩壊した場合、「岩屑なだれ」を防災対策の対象とする現象とした

### ● ハード対策

■崩壊の発生可能性が高いと思われる岩屑なだれと崩壊後の土石流については、水無川1号・2号砂防堰堤の嵩上げ等を行うことで効果を発揮することが確認された

### ● ソフト対策

■崩壊の予兆が確認できる場合、データについて学識者の意見を伺い危険度を判断する場を設けるべき。また、各市への情報提供手段の確立や避難場所の設定を関係機関と連携して行うことが重要

■突発的に崩壊する場合には「減災」を目的として避難方法の検討、崩壊を即時通報するシステムの構築などに取り組みを行うべき

### ● 調査・観測体制の強化

■今後、崩壊するブロックや土砂量を推定するため、溶岩ドーム表面の変位計測を継続し、総合的に溶岩ドームの変位傾向を解釈していくことが必要